

上間創一郎(立教大学社会学部兼任講師)

島嶼ツーリズムのビジネス展開

ーローカル企業の多様化と複合化ー

応用社会学研究(立教大学) No.59
pp.275~290 2017.3.

本稿は、島嶼ツーリズムの地域的・今日的発展におけるローカルビジネスの多様化と複合化を論点に、その展望と課題を明らかにすることを目的としている。具体的には、レジャー嗜好・レジャー市場の多様化の進展に着目し、その多様化に対応するためのビジネスの複合化が今後の可能性を高めるとの問題意識から、沖縄県の観光産業を対象に、ローカル企業の多様化・複合化により進展しているプライダル観光の現状と可能性を示すとともに、活性化への提言についてまとめたものである。また、補論として新しいビジネスである医療観光についても若干の検討を加えている。

本書の構成は以下のとおりである。

第1章 序ー背景ー

第2章 国際情勢とローカルビジネス

第3章 スタイルの多様化

第4章 医療と誘客ー補論ー

第5章 結ーローカル企業活性化に向けた若干の提言ー

第1章では、レジャー嗜好・レジャー市場の多様化への対応に向けたビジネスの複合化が今後の可能性を高めるとの問題意識を示している。その中で、沖縄県の観光産業を対象に、プライダル観光と医療観光にこれからの地域活性化の可能性があることを指摘している。第2章

では、観光産業の現状について、大局的かつワールドな視野から分析検討している。特に、世界情勢の不安等から、海外プライダルとしての国内の島嶼リゾート地・沖縄県が再評価され、地域としての総合的な産業振興となる発展可能性に言及している。第3章では、スタイルの多様化について、筆者の概念を示している。本稿で示すスタイルとは、従来のイメージには捉われない消費者の視点にたったサービススタイルの多様化、つまり「差別化」を図ることが肝要としている。具体的には、沖縄プライダルにおける非日常性による効果を説明している。また、沖縄がアジアのハブとしての機能に着目し、観光、国際、物流の視点からそのポテンシャルについて検討している。第4章では、新たな島嶼ツーリズムの手法として「医療観光」について、事例検証を通じて、温暖な気候、数多い優良な病院やリハビリ施設などの沖縄の地域優位性を示している。第5章では、これまでのまとめとして、沖縄の地理的不利要因（資源の狭隘性、コスト高など）も確認しつつ、我が国唯一の亜熱帯性地域特性、ソフト重視でも可能性のあるプライダル、高いポテンシャルを保有する医療機関の存在などを活かした官民連携による観光業界全体の横断的な振興と国際的なトレンド化・ブランド化の重要性を示している。

本稿は、地方分権が進展する一方、地方の抱える課題はますます深まる現状を切り開くためのネクストステージに向けた新たな論考を重ねた意欲的な論文である。

今後の沖縄県のプライダル観光、医療観光の進展に期待したい。

(大阪経済大学経済学部教授 梅村 仁)